食料生産科・農業クラブ機関誌　「あゆみ第２７号」に寄せて

こころを繋ぐ「ＦＦＪの歌」

校長　阿　部　　孝

「平成」から「令和」の時代へと新しい時代の幕開けとなった今年度の大きなイベントとして、「日本学校農業クラブ全国大会」が山形を主幹県として南東北三県で開催されました。農業学習の取組みの成果を発表するこの全国大会は今年で７０回を数え、第６６回大会では本校食料生産科がプロジェクト発表の部で「上山市の伝統野菜・食用ほおずきの研究」をテーマに発表し、最優秀の農林水産大臣賞を受賞する実績を残しています。

さて、全国大会・式典の当日、山形市スポーツセンターの大型スクリーンには、全国の農業高校で学ぶ皆さんが、それぞれの学校の自慢の場所で「FFJ の歌」を歌っているミュージックビデオが繰り返し映し出されました。皆さんも会場で観たと思います。
～♪ みのる稲穂に　富士と鳩 ♪～　歌詞は農業を志す若者たちを力強く鼓舞し、土を愛し土に生きる若人の情熱、農業クラブ活動の基となる自主独立の意欲など、明日の農業を背負って立つクラブ員の理想と希望などを歌ったものです。この「FFJ の歌」ですが、今年度（２０１９年）のＮＨＫ連続テレビ小説「なつぞら」でも、農業高校３年生という設定の奥原なつ（広瀬すずさん）が歌うシーンがたびたび放送されたことから、農業高校生はもちろん、農業高校で学んだ卒業生にとっても、「懐かしい」「農高生のソウルソング」などと一躍注目されました。

今回の全国大会の開催にあたっては、私も広告協賛の協力依頼ために県内の企業訪問をしましたが、その訪問先でも「FFJ の歌」が心を繋ぐ役目を果たしてくれました。例えば山形の特産サクランボの「佐藤錦」を主力品種に育て、拡大させた岡田　誠さん（東根市・天香園会長）や山形牛（ブランド牛）を自ら育てる傍ら、食肉卸会社と焼き肉店（山牛）を経営している大沼幸仁さん（寒河江市・山形ミートランド代表取締社長）を訪問した時のことです。二人とも本校の前身・上山農業高校の卒業生ですが、すぐに朝ドラの話題になり、「農業クラブの歌・FFJ の歌」が「懐かしいな・・」、「何十年ぶりに聴いたな・・」とその場を和やかにしてくれ、私が全国大会の趣旨を説明すると、後輩のために使ってと貴重な賛助金を頂戴したところです。

皆さんには、これからの時代の進展に即した農業と地域産業に貢献する人材となることが求められています。特にロボット技術やＩＣＴを活用したスマート農業や就農外国人を受け入れやＴＰＰ（環太平洋パートナーシップ協定）など、グローバル化にも対応することも必要になってくるのです。そのような時代であっても、農業クラブの仲間を繋ぐ「FFJ の歌」の精神を胸に、様々なことに大いに挑戦し活躍することを期待します。